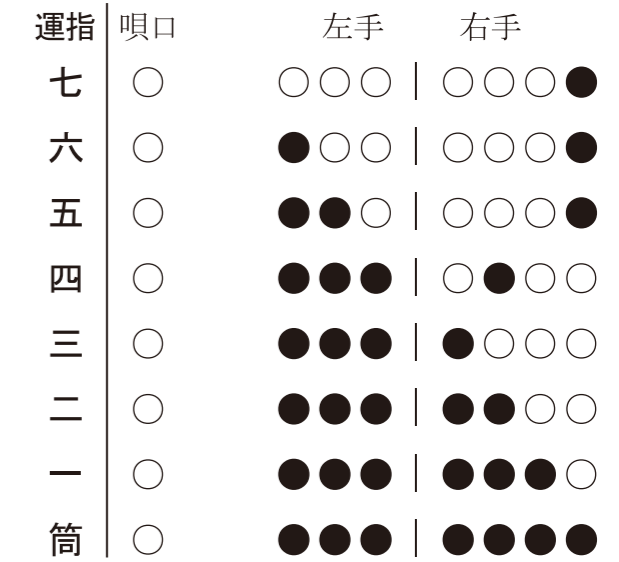


洋楽 近似値	音名	甲音 Hz	呂音 Hz	一本	二本	三本	四本	五本	六本	七本	八本	九本	十本	十一本	十二本
	断金	1250.3	625.1												七
D ₅	壱越	1170.8	585.4											七	
	上無 <small>かみむ</small>	1111.3	555.7										七		六
C ₅	神仙 <small>しんせん</small>	1054.9	527.5									七		六	
B ₄	盤渉 <small>ばんしき</small>	987.9	493.9								七		六		五
	鸞鏡 <small>らんけい</small>	937.7	468.8							七		六		五	
A ₄	黄鐘 <small>おうしき</small>	878.1	※2 439.1						七		六		五		四
	鳧鐘 <small>ふしょう</small>	833.5	416.8					七		六		五		四	三
G ₄	双調 <small>そうじょう</small>	791.2	395.6				七		六		五		四	三	
	下無 <small>しもむ</small>	740.9	370.4			七		六		五		四	三		二
F ₄	勝絶 <small>しょうせつ</small>	703.3	351.6		七		六		五		四	三		二	
E ₄	平調 <small>ひょうじょう</small>	658.6	329.3	七		六		五		四	三		二		一
	断金 <small>たんぎん</small>	625.1	312.6		六		五		四	三		二		一	
D ₄	壱越 <small>いちこつ</small>	585.4	※1 292.7	六		五		四	三		二		一		
	上無	555.7	277.8		五		四	三		二		一			筒音
C ₄	神仙	527.5	263.8	五		四	三		二		一			筒音	
B ₃	盤渉	493.9	247.0		四	三		二		一			筒音		
	鸞鏡	468.8	234.4	四	三		二		一			筒音			
A ₃	黄鐘	439.1	219.5	三		二		一			筒音				
	鳧鐘	416.8	208.4		二		一			筒音					
G ₃	双調	395.6	197.8	二		一			筒音						
	下無	395.6	197.8		一			筒音							
F ₃	勝絶	370.4	185.2	一			筒音								
E ₃	平調	351.6	175.8			筒音									
	断金	329.3	164.6		筒音										
D ₃	壱越	312.6	156.3	筒音											



近年、西洋の12平均律を目指した「ドレミの笛(洋楽調)」を「唄用」「歌物用」と呼ぶ事例が散見されます。「唄用(邦楽調)の篠笛」と「ドレミの笛」とでは、その来歴や設計思想が異なりますので、ご注意ください。

篠笛文化研究社・玲月流では、雅楽の笛の音階に準じる「古典調」の笛と名称の次元を揃えるために、「唄用」を「邦楽調」と呼んでいます。

- 日本の音は「壱越」基準として「三分損益法」で算出します。
 - 「壱越」の音程は時代によって異なります。
- ※1
- 「京師」は、明治中期にイギリス人の音楽学者、エリス (Alexander John Ellis) が測定した「音又」の数値：「壱越」=292.7 Hz を基準に「三分損益法」のにより算出した数値を各指孔に割り当てています。
- この「音又」は、雅楽の専門の楽人が測定した「日本音楽十二律ヲ示スヘキ調音又」で、明治十八年(一八八五)「ロンドン万国発明品博覧会」に出品され、現在は東京藝術大学に所蔵されています。

- 表の数値は、おおよその目安です。各指孔の音程には幅を持たせています。これは、十二律の音程にとられすぎると、自然な指運びが困難な位置に孔を配したり、極端に小さな指孔(音色が損なわれる)を開けたりすることになるからです。奏者の息遣いによっても音程は大幅に上下します。
- 「京師」の製作にあたっては、「響きの良い透明な音」と「自然な指運び」、「ピロピロと鼓膜に響く指打ち音」の実現を第一に考えます。篠笛は楽器だけではなく、奏者の息遣いや指使いの工夫をともなって「音色・音量・音程」を練り出す「半作音楽器」です。音を作る過程で醸し出される「篠笛の味」「篠笛らしさ」「篠笛の趣」を大切にしましょう。

※2

現在、日本音楽の調子笛は、「黄鐘」をAとして、A=430 Hz として、Aの音から「三分損益法」で各音を算出することが多いようですが、A=430 Hz という数値に歴史的な意義はありません。戦後、Cを「2の累乗」で定める「物理学ピッチ philosophical (scientific) pitch」(18世紀にフランスの数学者、ソヴール (Joseph Sauveur) が提唱) のC⁴ (2の8乗 = 256 Hz) から平均律のA⁴ = 430.54 Hz を求め、その小数点以下を切り捨てて 430 Hz としたものと推測されます。

詳細は森田玲『日本の音 篠笛事始め』(篠笛文化研究社)を参照ください。